

# 日本民家園だより

第56号

平成16年7月10日

編集・発行 川崎市立日本民家園

## 企画展示「家の神々 —作田家の守り札—」



国指定重要文化財 旧作田家住宅

日本民家園では7月1日(木)より11月28日(日)まで、山下家2階展示室において企画展示「家の神々 —作田家の守り札—」を開催します。かつて私たちの暮らしを見守りつづけたさまざまな神仏の姿を、ぜひこの機会にご覧ください。

### 日本民家園収藏品目録2「旧作田家住宅」刊行

〒214-0032 川崎市多摩区柘形7-1-1

電話 044(922)2181

FAX 044(934)8652

川崎市立日本民家園

<http://www.city.kawasaki.jp/88/88minka/home/minka.htm>



カスワク メ粕を搾るときに使用する木枠

### [はじめに]

旧作田家住宅は、昭和44年に千葉県山武郡九十九里町作田より移築されました。主屋と土間棟それぞれに屋根をかける分棟型の民家で、この形式の民家の分布を考える上で貴重なものです。昭和45年には国の重要文化財に指定されました。

この移築とともに、関連資料も多数寄贈されました。同家で使用された生活用具のほか、特徴的なものとして2000点に及ぶ大量のお札があります。また、日本民家園では同時に地域の民俗調査を実施し、資料の収集を行ないました。このとき収集されたのは、地曳網漁に使用された漁具のほか、イワシの加工用具など、いずれも作田家の生活を知る上で欠かせないものです。

ここではこれらの資料のほか、作田家の暮らしについてご紹介します。

### [地曳網漁]

作田家は網元として、元禄時代よりイワシの大地曳網漁を営んできました。大地曳網とは、船1艘で行なう現今の片手地曳網と異なり、網船2隻を使って行なうものです。この大地曳網漁は、70名ぐらいの船方のほか、岡者と呼ばれて網を曳くときだけ手伝う農民も含め、総勢200人以上の労働力を必要とするきわめて大規模なものでした。作田家では、これら船方や岡者のほか、船大工や、鍛冶屋、網職人、さらにはイワシの加工業者まで抱えていました。こうした労働力の確保が、当時の漁業経営の基本だったのでした。

イワシは食糧にもされましたが、その多くは

干鰯やメ粕といった肥料にされました。干鰯はイワシを10日から15日（秋冬は24日から30日）ほど砂浜で干し上げたもの、メ粕は煮たイワシをカスワクと呼ばれる木枠に入れてしぼり、その後乾燥させたものです。いずれも即効性の肥料として、江戸半ばより盛んになった綿や藍などの栽培用に関西まで出荷されました。

しかしこうした大地曳網漁も、イワシが少なくなったことと他の漁法に押されたことで少しずつ衰退しました。作田家は昭和9年に漁を終え、現在は醤油や味噌の醸造業を営んでいます。

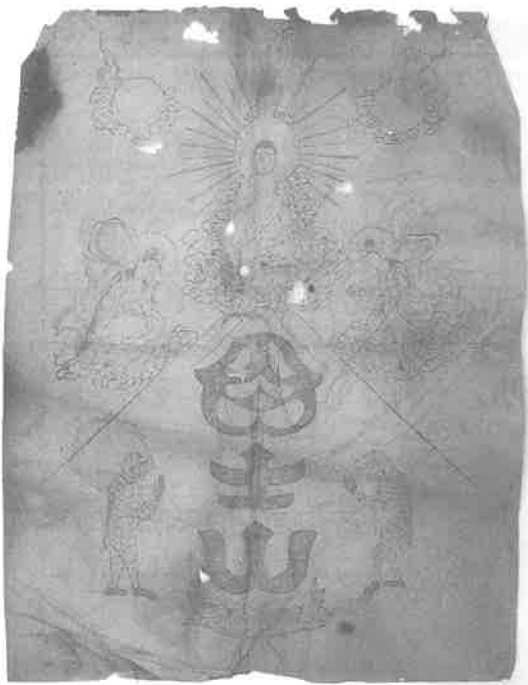
### [作田家について]

作田家は網元の家といっても海岸沿いにあったわけではなく、海から2キロほど内陸に入ったところにありました。そしてこのあいだ、海岸から主屋までの土地すべてが作田家のものでした。船方たちも、岡者として漁を手伝う農民たちも、この土地を借りて暮らしていたのです。また、海岸近くには漁にとまなうさまざまな建物が設けられていました。主人の居場所である上納屋、船方たちの控え場所である大納屋、このほか網を取めておく倉庫や網の染め直しを行なう釜場、イワシの加工場などが、1ヘクタールもの広い敷地に集められていました。

作田家の主人はダンナサマと呼ばれていました。そして、主人の妻はジョウサマと呼ばれていました。近所の人々は、作田家の長屋門をくぐるときはホッカブリをぬぎ、話をするときにも縁側に腰掛けることはありませんでした。最近まで、ある年齢以上の人はすすめられても決して家には上がらなかったといえます。ジョウサマをはじめ、作田家の女性は外出するとき駕籠を使っていました。民家園に移築された旧住宅の大戸口は、この駕籠の棹の長さが収まるよう、間口が決められたそうです。



サラエ 干鰯を砂浜に広げるときに使用



お札 (富士山)



お札 (羽黒山)



お札 (金刀比羅宮)

### [守り札]

移築にともなう解体作業中、屋根裏から10数俵の俵が見つかりました。作業を手伝っていた近隣の人々は金がつまっているのではと騒いだそうですが、中から出てきたのは大量のお札でした。数にしておよそ2000点。年代の記されたものはごくわずかですが、江戸から明治にかけてのものがほとんどと考えられます。地域的には実に広い範囲にわたっており、成田山や鹿島神宮など千葉県周辺はもちろんのこと、北は下北半島の恐山から、西は出雲大社のものまで含まれています。このほか出羽三山、川崎大師、富士山、伊勢神宮、熊野三山、金刀比羅宮など、著名なところから現在は廃されているところまで、社寺名の記されているものだけで100箇所にも及んでいます。これらのお札には御師の名の記されているものが少なくありません。御師とは布教にたずさわった宗教者のことで、各地の社寺のこうした人々が作田家を訪れていたのです。現在のご当主も、神奈川県の大山の御師が正月に滞在し、近隣にお札を配って歩いていたのを覚えていらっしゃるかもしれません。それではなぜ、このようにお札が保管されていたのでしょうか。作田家に言い伝えなどは残されていませんが、かつては古いお札を屋根裏に上げておくと魔除けや火災除けになるという信仰があり、それに基づいて何代にもわたりお札が保管されていたものと考えられます。

(学芸員 澁谷卓男)

## 7-11月の催し案内 その1

### 園内解説

①9月18日 ②10月23日 ③11月27日  
(各土曜日・13:30-14:30)

民家園元職員(建築職)が園内の建物や関連資料について解説します。各回集合場所が違うので時間に余裕を持っておいでください。

解説: 野呂瀬正男(文化財技師)

途中参加自由 雨天中止

①東北の村ほか(奥の門内側集合) ②本館展示室・宿場の村(本館前集合) ③信越の村(佐々木家前集合)

### 民家トークン

①9月5日 ②10月3日 ③11月14日  
(各日曜日・13:30-14:30)

民家を1軒ずつ取り上げ、職員(建築職・学芸員)が企画展、建物、民俗資料などについて解説します。解説民家の前にお集まりください。

途中参加自由 雨天中止

①作田家~家の神々(澁谷卓男) ②佐々木家~大洪水をこえて(増瀬和夫) ③船越の舞台~芝居の立つ町(澁谷卓男)

### 体験学習講座

- ◎竹細工「かざぐるま」 9/19(日)
- ◎「綿の実から糸まで」 9/23(木・祝)
- ◎わら細工「わらじ」 10/3(日)
- ◎竹細工「菱四つ目かご」 10/10(日)
- ◎わら細工「かましき」 11/21(日)

事前申込み制。時間・申込み方法など

詳しくはお問い合わせください。

# 平成16年 7-11月の催し案内 その2

## ～古民家で聞くむかしばなし～

### 九十九里編

9月25日・10月16日(各土曜日)

1回目13:00-13:30

2回目14:30-15:00

企画展示「家の神々←作田家の守り札」にちなみ、作田家のあった九十九里地方の昔話を中心に、川崎在住の俳優が素語りをします。  
無料(入園料別)  
当日先着順 各回30人 作田家にて  
川崎文化会議共催



## 竹内敏信講演会

～小さな風景と  
大きな風景～

10月11日(月・祝)

14:00-16:00

現代日本を代表する写真家の竹内敏信氏が、民家園を出発点に日本全国の風景・世界の風景について講演をします。  
原家2階にて 2000円 定員50人  
申込み 往復ハガキで9/27(月) 締切必着  
川崎文化会議共催



## 民家園を撮る

民家園の秋・冬をテーマにした写真展をします。  
応募期間 11/2(火)～1/30(日) 締切必着  
竹内敏信氏選考  
写真展 3月予定(入選作を展示します)  
詳しくは募集要項(園内配布)をご覧ください。  
川崎文化会議共催

## 民俗芸能公演

11月3日(水・祝)

船越の舞台にて  
当日は無料開園日です。民俗芸能団体の公演のほか、むかし体験・実演会・展示会などを予定。

## 講座「古民家の話 ― 関東の村②」

11月6日・11月13日・11月20日

(各土曜3回連続) 13:30-15:30

原家2階にて 2000円 定員30人  
往復ハガキで10/25(月) 締切必着  
内容・講師は7月実施の講座と同じです。  
詳しくはお問い合わせください。

## 民家園ボランティア募集

囲炉裏の火焚き、古民家解説などのボランティアスタッフを募集します。

対象 ①土・日に月2回以上活動し、例会(月1回・平日)に出席できる方 ②15歳以上で、人に接するのが好きな方 ③下記の養成講座に全日参加できる方

養成講座 9月4日・11日・18日(各土曜日)、26日(日) 全4回 10:00-15:00

\*養成講座を終了後、「炉端の会」の土・日班に入会し活動します。

\*なお恐縮ですが、活動にあたっては交通費・昼食代などの金銭的な補助はありません。その点を十分ご理解の上お申込みください。

申込み 往復ハガキで8/23(月) 締切必着  
定員30人



## 俳句 民家園を詠む

応募期間 9/1(水)～10/31(日) 締切必着  
1人3句以内(所定の応募用紙にて) 川崎市俳句連盟選考

作品展 2月6日(日)～20日(日) 本館にて  
入選作を展示します。

詳しくは募集要項(園内配布)をご覧ください。  
川崎文化会議共催

## 人形浄瑠璃

10月24日(日)

「鎌倉三代記 三浦別れの段」

相模人形芝居下中座(国指定重要無形民俗文化財)

重要文化財の古民家を舞台に人形浄瑠璃をご覧いただきます。

1回目 12:30-14:00

2回目 14:30-16:00

工藤家にて(各回とも上演前に約40分の解説と体験コーナーがあります。)

定員 各回120人

申込み 往復ハガキで10/6(水) 締切必着

料金 大人 1000円 学生・子ども 500円

## 実演「大工仕事」と体験「子ども大工入門」

10月17日(日)

11:00-12:00、13:00-15:00

・昔の大工道具チョウナ削りなどの実演  
・ノコギリ・カンナなど大工道具を使う子ども向けの体験コーナー

無料(入園料別) 当日参加自由

協力 神奈川土建川崎多摩支部

雨天中止 材料がなくなった場合は、早目に終了することもあります。

## お申し込み方法 ～往復ハガキの場合

- \*講演会・養成講座は往復ハガキ(1人1枚)に「住所・氏名・電話・講座名・開催日・高校生は学年」を記入の上お申込みください。
- \*人形浄瑠璃は往復ハガキに「住所・氏名・電話・行事名(人形浄瑠璃)・希望回・人数(5名まで)」を記入の上お申込みください。
- \*定員を越えた場合は抽選となります。
- \*原家2階は和室・座布団席となります。